

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-219789
(43)Date of publication of application : 08.08.2000

(51)Int.Cl.

C08L 25/04
B65D 1/09
B65D 43/02
C08L 23/08
C08L 51/04

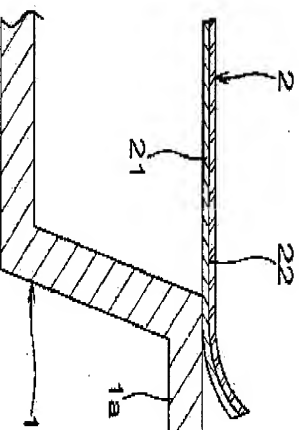
(21)Application number : 11-024202
(22)Date of filing : 01.02.1999

(71)Applicant : GIKEN KASEI KK
(72)Inventor : HORINO SHIZUKA
YASUMOTO KORO
NISHIOKA TAKU

(54) RESIN COMPOSITION AND VESSEL THEREFROM

(57)Abstract:
PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a new resin compsn. capable of forming a vessel itself and a lid having both good thermal bonding and easy peeling properties without requiring a thermal bonding layer, and a vessel therefrom.

SOLUTION: This resin compsn. contains a rubber modified styrene resin which is a styrene resin in which a rubber-like polymer is dispersed so as to be an occlusion type dispersed particle, and also contains a copolymer of an unsaturated carboxylic acid, its ester or vinyl acetate, and ethylene (a), a propylene resin (b), and a copolymer of an unsaturated carboxylic acid, its ester or vinyl acetate, and ethylene (c) in the wt. ratio of (a)/(b)/(c) \geq 10/87/3--50/30/20. This vessel is a combination of a vessel itself 1 obt'd. by molding the resin compsn. or the propylene resin and a lid 2 whose thermal bonding surface to the vessel itself 1 is formed from the propylene resin or the resin compsn.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]
[Date of sending the examiner's decision of rejection]
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]
[Date of final disposal for application.]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(10) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許公開公報番号
特開2000-219789
(P2000-219789A)
(43) 公開日 平成12年5月8日(2000.5.8)

(61) Int.Cl.⁷ 25/04
C 0 8 L 1/00
B 6 5 D 45/02
C 0 8 L 23/06
51/04

発明記号

F Y
C 0 8 L 25/04
B 6 5 D 45/02
C 0 8 L 23/06
51/04
B 6 5 D 1/00
A
5-0-1 (参考)
3 E 0 3 3
3 E 0 8 4
4 J 0 0 2

(21) 出願番号

特願平11-24202

(71) 出願人

00015904S

発明化株式会社

A

(22) 出願日

平成11年2月1日(1999.2.1)

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3丁目5番13号

(72) 発明者

福岡県福岡市神辺3-7-6

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

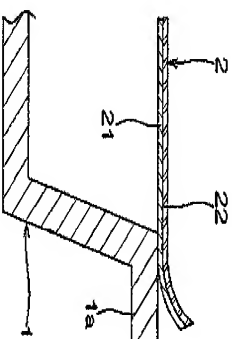
長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号

(72) 発明者

長崎県佐賀市神辺3-23 打田レックス304号



(54) 発明の名称 組立構成物とそれを用いた装置

(57) 要約

【課題】 熱接合面を必要とせずに、しかも良好な熱接合性を有するジョイント部を備えた容器本体と蓋体とを形成できる新規な樹脂組立物と、それを用いた容器とを提供する。

【解決手段】 樹脂組立物は、(a) スチレン系樹脂中に、ポリスチレン単体が単一オキソベンジジン環の分散粒子形状となるように分散され、かつ不飽和カルボン酸、そのエステルまたは酸無水物と、エチレンとの共重合体が含有されたポリスチレン系樹脂、(b) プロピレン系樹脂、および(c) 不飽和カルボン酸、そのエステルまたは酸無水物と、エチレンとの共重合体、を重量比で(a)/(b)/(c)=10/87/3〜50/30/20の割合で含有する。容器は、上記樹脂組立物、またはプロピレン系樹脂を成形して得られた容器本体1と、当該容器本体1に対する熱接合面がプロピレン系樹脂、または上記樹脂組立物で形成された蓋体2とを組み合わせた。

特許 2000-219788

小強氏の女子道場団を維持するのが難しいという問題がある。

3

つた。[100009]そこで、たとえば特許第2740014号公報の第9欄第8行～第14行などに記載されているように、媒体形式に関して、各資料を本体(1)側に於いて、所定の領域(2)に記録するとともに、前記のメディアシステムとして、所定の領域(2)よりもジャンル様態などを決定させることとされている。前記の図6参照。

【0011】なお、異なる客層において、例えば、若年層（9 2）の顧客時に、熱帯着る客層を 1 が、連体 9 2 の側に熱帯着る客層 2 の側をブラッシング 9 1 a の領域で、客層本体 9 1 側に集った客層 2 とは異なる、及び切が前記ようにおそれるので、上記付託客層に記載の発明の要旨に、ブラッシング 9 1 a に、図示して、ないが、連体 9 2 の別動時に熱帯着る客層 1 を、ここに破折する、ため、の構造（丁ねきなど）を、おける、こと、が、行われている。

【説明が決定しようとする課題】 前記従来の容器は、いずれも熱液が周囲に充填で、その分、全体としての體積が多くなると、前記のように熱液が層ををけるに匹敵する程度の構造を設けるために容器本体と、その成形のための型の構造と複雑になるなどして、生産性の低下、コストアップ等の問題を生じていた。

(3) 12] また、上記のように種数の多い変種は、近年の、省資源とびん・の容器化の要求に十分に対応できな
いという問題もあった。すなわち変種のうち変種本体は
一般に、平版紙の原紙シートを異型成形、圧型成形な
るにより変種本体の形状に成形すると、成形されたい
た容器本体の周面に残るシートの端材を除去して製造さ
る。この場合、端材の処理は、端材をばらばらにばら

[illegible]

【0011】また、やはり特許出願とゴムの減量化を目的として、使用後の容器本体よりサイクルする動きが盛んになりつつあり、そのために、たとえは樹脂製のみの場合でもはね付の突起物と、とくに円筒するところをめぐらせたものにより特許権を獲得したる圓柱状の容器本体は図のように片側でさきだいために、溝状ではりサイクルが容易でないとという問題もある。

【0015】本発明の主たる目的は、上記のように種々

の両端を生ずる熱張力面を必要としないにも拘わらず、既述の熱張力面は、エーデルバール性を著しく損う原因となるのである。また従来、管の目的は、あらゆる材料組成物を造ることにあった。普通、管本体と管壁とが異なる材料組成物を用いることにより、管の強度を高め得た。新規な管壁を提供する「エーデルバール性」を著し得えた、新規な管壁を提供することになる。

【問題点を解決するための手段】上記問題を解決するため、発明者は、まず、次のような手段を、**基材の選択層や密着層本体の原料として最も一般的なアクリル系樹脂に限定して、かつ、アクリル系樹脂に対する熱安定性、イージー・ジェル性などの特性を上げ、しかも、密着層本体や基材の基材層としても十分に使用できる組成や形態安定性などを有する材料**を見出し、種々検討した。

【0177】その結果、ca）として、アクリル系樹脂となる

不規則カマルボク腺、不規則カマルボク腺エスナルキよび腎臓、
 腺ビエルカなる群より選ばれた少なくとも1種とエチ
 ンとの共生体を含むされたゴマ腺、成熟スチリ系樹皮組織
 と、クロヒレキ系樹皮組織とをきみ、基本的には相違

性を有している。このように形成された系膜質を、(a)中のスチレン系樹脂と(b)のポリエーテル系樹脂とを、(a)中のスチレン系樹脂以外の成分と、(a)の成分の分子比で形状としての特性によって均一に相溶させた樹脂組成物が、適度な柔軟性を有し、かつ、高い引張り強さを兼ね備えたものであることを示した。

[illegible]

(0.020) そこで、上記の諸観測物とのとくに低濃域での熱伝導性を向上して、既に温度範囲に亘る熱伝導性の測定性を高めるべくさらに材料を特許一次結晶、上記(6)の成分に基き、両成分と相溶性を有する、(C)不能混和性成分とを含有する組成物を調製し、これを乾燥させた。このようにして得られた組成物の熱伝導性は、室温で約0.020 W/mK程度であり、必要十分な熱伝導性が得られなかったことが判明した。

(0.020) そこで、上記の諸観測物とのとくに低濃域での熱伝導性を向上して、既に温度範囲に亘る熱伝導性の測定性を高めるべくさらに材料を特許一次結晶、上記(6)の成分に基き、両成分と相溶性を有する、(C)不能混和性成分とを含有する組成物を調製し、これを乾燥させた。このようにして得られた組成物の熱伝導性は、室温で約0.020 W/mK程度であり、必要十分な熱伝導性が得られなかったことが判明した。

特開 2000-219789

10 体をもその垂直上の傾斜などで説明したとき、場合によっては、
 基本モデル1をその両端の側面図に於て形成する。たとえば、
 基本モデル1を、その両端の側面図として、より運動的な傾斜アロ
 ンで示し、傾斜に於て形成するのをめざす。ただし、傾斜をも
 明である必要のない場合は、いずれの傾き方々を採
 用してもよい。
 (O4.6) 上記の姿勢モデル1と基本モデルを樹立した後は、
 基本モデル1の両面図として、両端のこの各食品の
 傾斜に於て使用する。たとえば、傾斜の傾斜の傾斜
 傾斜に於て使用する。この場合は、傾斜する前の傾斜
 とを姿勢モデル1内に示し、傾斜する前の傾斜
 姿勢図である傾斜に於て、傾斜の傾斜を傾斜に於て
 傾斜、傾斜の傾斜の傾斜、傾斜の傾斜に於て傾斜

【0049】かかる本発明の課題は、管腔本体1と、1
 体との熱接合面となる部分層2とが、それ以上記
 述による本発明の材料組成物から、フロビド[®]を
 み含ませて形成されるために、熱接合層を有しない
 材料とすべしである。また管腔本体1は、図の例を
 示すものとなる。また管腔本体1は、図の例を
 示すものとなる。また管腔本体1は、図の例を

[illegible][illegible]

本件1遺体の容体の形状、厚程度、節節の粗み等から推定するに、
 本体内のものには判定できず、衣服の着用などによってあ
 らず、骨の露け状態が可能なことである。
 (ト5.2) その場合、本検体の発見を既述しないうちに
 (ト5.3) の遺体の位置を断つことが出来る。
 【検体例】 以下に本検体を 表検例、上表検例に就いてい
 説明する。
 下記で既述した如く本検体と遺体とを組み合わせさせて表検例1

13

	実効例 5	比較例 2	実効例 6	比較例 7
樹脂	A1 50 B1 40 G1 10	60 30 10 5mm	20 75 60 20	20 80 60 20
熱収縮 温度 (°C)	160 170 180 200 220 230	0.00 0.22 0.44 0.66 0.88 0.71	0.40 0.40 0.99 1.05 1.02 0.61	0.58 0.98 1.25 1.25 1.24 1.25

(8)

特開2000-219789

14

* [0002]

[表3]

10

	比較例 8	比較例 9	比較例 10
樹脂	A1 100 B1 100	40 50 50	60 90 90
熱収縮 温度 (°C)	160 170 180 200 210 220 230	0.00 0.25 0.52 0.48 0.63 0.61	0.00 0.00 0.00 0.19 0.42 0.42

*

【0063】上記式、ならびに図の結果より、本実施例の容器は、いずれも、各比較例のものに比べてより高い熱収縮温度の範囲で、十分なシール強度とイージーピール性を兼ね備えたものとなることが判明した。

【実施例8】

容器本体の原料として、プロピレン系樹脂である前記B1の樹脂を使用するとともに、遮体となる樹脂フィルムのうち遮光性の原料として、前記実施例1で容器本体を形成したのと同じ樹脂組成物を使用したこと以外は実施例1と同様にして容器を得た。

【0064】そして、容器本体を異型成形する際の反圧シートと、遮体となる樹脂フィルムとはについて、上記と同様にして、その熱収縮性を詳細したところ、実施例1とは同様の測定結果が得られた。

【0065】

【発明の効果】以上、詳述したように本発明によれば、種々の問題を生じる熱収縮性を必要としないにも関わらず、良好な熱収縮性とイージーピール性とを兼ね備えた、容器の容器本体と遮体を形成しうる、新規な樹脂組成物を提供できるという特徴的作用効果を奏することによって本発明によれば、みめる樹脂組成物を用いることによって熱収縮性を省略して、容器本体は、端付けの再利用や使

用後のリサイクルが可能なる単層構造としつつ、しかも容器本体と遮体とが良好な熱収縮性とイージーピール性を兼ね備えた、新規な容器を提供することも可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の容器を構成する容器本体と遮体の、層構成の一例を示す概略断面図である。

【図2】本発明の樹脂組成物における、3成分の樹脂の、含有割合の範囲を示す三角図である。

【図3】本発明の実施例、比較例における、熱収縮温度とシール強度との関係を示すグラフである。

【図4】本発明の比較例における、熱収縮温度とシール強度との関係を示すグラフである。

【図5】同図(4)~(c)はそれぞれ、従来の容器を構成する容器本体と遮体の、層構成の一例を示す概略断面図である。

【図6】従来の容器を構成する容器本体と遮体の、層構成の他の例を示す概略断面図である。

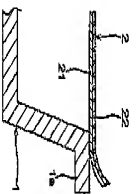
【符号の説明】

- 1 容器本体
- 2 遮体

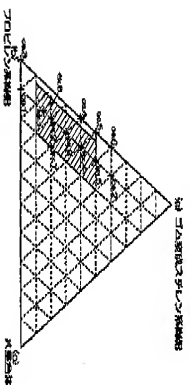
(9)

特開 2000-219788

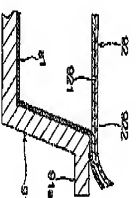
【図 1】



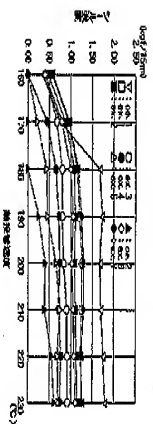
【図 2】



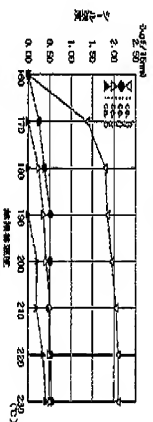
【図 6】



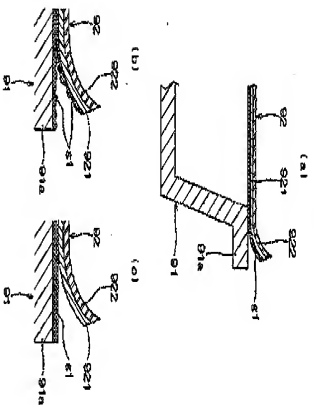
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

(四)

特開 2 0 0 0 - 2 1 9 7 8 9

Fターム(備考)

JE033 AA08 AA10 BA18 BA22 BB08
DA05 DA08 DD01 CA03
JE084 AA08 AA14 AA24 AB10 BA01
CA03 CC03 DD03 DD03 FA09
FI13 GE12
4J002 BB06U BB06Y BB07U BB07Y
BB08U BB08Y BB12Z BB13Z
BC03N BC04M BC06N BC07W
BN06X BN14X BP02Z QP01